

不祥事続く三菱電機 社長辞任で済むか？

ジャーナリスト
大津 彬裕

家電から人工衛星まで幅広い事業を手掛け、連結従業員数は14万人超という三菱電機。鉄道車両用の電装品などでは国内トップクラスの総合電機メーカーだ。近年、品質不正や

労務問題などの不祥事が相次いでいたが、6月下旬、今度は鉄道向け空調装置やブレーキなどに使う空気圧縮機で不正検査が行われてきたことが明るみに出た。鉄道向け空調装置の製造を担う長崎製作所（同県時津町）では、実に35年以上にわたり不正検査が行われてきたのだという。

米ニューヨークの地下鉄車両にも同社製の空調装置が使われているといい、事故はまだ確認されていないものの、影響は海外にも広がる。

三菱電機では2016年以降に、製品の品質や検査について3回社内調査を行っており、長崎製作所でも調査があったのに不正は見つから

なかった。同社では、8月から社外の弁護士らによる不正の調査委員会を設けて調べており、調査結果は9月に公表されるという。

就任3年余の杉山武史社長（64）は7月2日、この件について初めて記者会見を開き、引責辞任すると発表した。この会見で社長は、検査

には長崎製作所の従業員30人程度が関与していたことを明らかにし、1990年から架空データを偽造するための専用プログラムを使っていたことも分かった。

「財閥」育ちの会社で、昔から言われてきた閉鎖的な企業風土を、今回の不祥事を機に改善できるのか。エア

コンから人工衛星まで多様な事業を手掛ける三菱電機がどう対応するか、この会社の将来が問われることになるう。

同社には12人の取締役がいて、うち7人は社内出身。5人の社外出身者の顔ぶれは、元外務次官の藪中三十二氏、元検事総長の大林宏氏、元三菱

東京UFJ銀行頭取の小山田隆氏など。在任9年の藪中氏は、取締役候補を選ぶ指名委員長、同8年の大林氏は監査委員長の責任を負う。留任

する藪山正樹会長は、6月1日に

経団連の副会長に就いたばかりだが、検査不正に関する調査結果がまとまる9月まで財界活動を自粛すると発表した。

ナンバー2が昇格

同社は後任に、専務執行役だった漆間（うるま）啓氏（62）が昇格したと発表した。藪山正樹会長（69）は留任、杉山氏は取締役や執行役

から外れ、特別顧問になる。漆間氏は、工場の自動化設備部門や欧州

代表などを務めてきた。2020年4月からは経営企画担当の専務として中期経営計画の取りまとめにあたるなど、事実上のナンバー2だった。

【筆者紹介】
大津彬裕（おおつ・よしひろ）

東京教育大学卒。1962年読売新聞入社。社会部・外報部・解説部記者を経て、共同PR社顧問。元PRコンサルタント。慶応、玉川、相模女子大学非常勤講師を歴任。『ブランドは広告でつくれない』（翔泳社、共訳）など、著訳書多数。



調査があったのに不正は見つから

代表などを務めてきた。2020年4月からは経営企画担当の専務として中期経営計画の取りまとめにあたるなど、事実上のナンバー2だった。

経団連の副会長に就いたばかりだが、検査不正に関する調査結果がまとまる9月まで財界活動を自粛すると発表した。

東京教育大学卒。1962年読売新聞入社。社会部・外報部・解説部記者を経て、共同PR社顧問。元PRコンサルタント。慶応、玉川、相模女子大学非常勤講師を歴任。『ブランドは広告でつくれない』（翔泳社、共訳）など、著訳書多数。

